令和７年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者　廿日市市立廿日市小学校　原　早喜

第６学年　４組　31名

１　単元名　未来の地球へ届けよう、私たちの宣言
「「永遠のごみ」プラスチック」（東京書籍　「新編　新しい国語　六」）

２　単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編第５学年及び第６学年の〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃの指導事項「オ　文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」力を育成するには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを既有の知識や経験と結び付けて自分の考えを形成することが必要となる。

本単元で扱う教材文「「永遠のごみ」プラスチック」は、正しく廃棄されずに海洋流出したプラスチックが環境に与える影響や仕組みについて解説したうえで、一人一人ができる取組について述べられた文章である。加えて、資料①では新しい技術の例として、「生分解性プラスチック」が取り上げられ、資料②では、資源の有効利用の例としてプラスチック製漁網を再利用したかばんが紹介されている。教材文と併せて読むことで、プラスチックごみ問題についてより多面的に捉えることができる。また、プラスチックは生活の至るところに存在し、身近な材質であるため、自分の知識や体験したことと関連付けたり、比較したりしながら読み進めやすいことから、自分の考えをまとめることに適した教材であると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、説明的な文章「インターネットの投稿を読み比べよう」を読む単元において、複数の投稿を読み比べて、自分の考えをより適切に伝えるための論の進め方や理由や事例の使い方について考える学習をした。そこでは、インターネット上に投稿されたという想定の文章を読み、議論の続きに参加するつもりで自分の意見を書く活動を行った。その際、90％の児童が、自分の意見を自力で書くことができた。しかし、自分が経験したことを取り入れて考えをまとめた児童は67％であった。また、自分が知っていた知識と関連付けて書くことができた児童は一人もおらず、自分の考えを表現する際に根拠となる資料やデータなどの情報だけでなく、まとめなくてはならない自分の考えまでも、思考することなくインターネット上から検索する児童もいた。

児童アンケートでは、「文章を読んで思ったことや考えたことを書くのは好きですか。」という質問に対し、73％の児童が否定的な回答をした。否定的な理由として、「どう書けばよいか分からない」「考えが浮かばない」と答えた児童が多かった。このような実態をふまえ、文章を読んで理解したことを既有の知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめる力を身に付けさせる必要性は高いといえる。

(3) 指導観

指導に当たっては、プラスチックごみや海洋汚染について書かれている図書を学習のスタートから準備し、朝の時間や隙間時間に並行読書をさせたり、関連する動画やインターネットの資料を見たりする時間を設定することで、教材文の題材に関する児童の関心や知識の幅を広げる。

また、考えの形成の際に文章を読んで理解したことと既有の知識や経験を結び付けて自分の考えをまとめやすくするために、教材文を読んで想起された自分の知識や経験を「そういえば…カード」として書く活動を毎時間の振り返り後に取り入れ、蓄積できるようにする。

考えの形成の際には、㋐学習したことと思ったこと㋑知っていたことや自分の体験と学習前の考え㋒自分にできることの三つの視点を与え、板書とワークシートを㋐は赤、㋑は黄色、㋒は青で色分けして示すことで、板書とワークシートを対応させながら考えをまとめられるようにする。

３　単元の目標

○　情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができる。　〔知識及び技能〕（２）オ

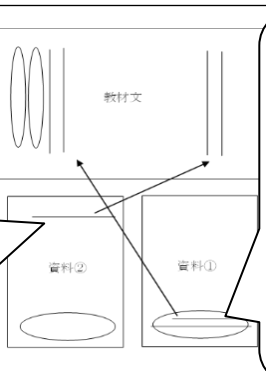
○　文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）オ

○　言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。（（２）イ）	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。（Ｃ（１）オ）	①　進んで、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを文章にまとめようとしている。

〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】		「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。（（２）イ）	一人１台端末 資料①で生分解性プラスチックがプラスチックごみ問題を解決するための一つの方法として紹介してあるが、筆者の文章で述べられているマイクロプラスチックの問題は生分解性プラスチックでも課題となっている。そのため、どちらの文章にもプラスチックを減らすことが必要であることが述べられている。 資料②で漁網の影響が大きいと述べている。筆者の文章では漁網がウミガメやアシカなどの体に巻き付くと漁網の影響を具体的に述べている。  	・　どこに線を引いたり、印をつけたりすればよいか分からない児童には、提示する文章の範囲を限定し、共通する言葉を探させる。 ・　どのようなことを書けばよいか分からない児童には、他の児童が書いたものを紹介する。
思考・判断・表現①	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。（Ｃ（１）オ）	ワークシート・一人１台端末 ㋐学習したことと思ったこと プラスチックごみによって海の生き物の自由を奪ったり私たちの体内にもプラスチックが取り込まれたりしている。プラスチックは微生物によって分解することができないためである。これを解決するために微生物が分解できる生分解性プラスチックが生まれた。しかし、生分解性プラスチックでも、分解する過程でマイクロプラスチックが発生することもある。私は、自分たちの体内にもプラスチックが取り込まれているとは思わず、恐ろしく感じた。 ㋑知っていたことや自分の体験と学習前の考え 私はこれまで、プラスチックを当たり前のように使っていた。のどがかわくとペットボトルを買って飲んだり、スーパーに買い物へ行ったときは、レジ袋をもらったりしていた。 ㋒自分にできること しかし、このままでは海の生き物だけでなく、私たちもプラスチックごみに苦しめられ続けてしまう。これを解決するために私に明日からできることは、買い物をしたときにレジ袋を絶対にもらわないことである。なぜこの取組をしたいのかというと、レジ袋をもらうことを完全になくすことで、不必要なプラスチックは生産されずにすみ、捨てられることがなくなるからである。また、プラスチックを必要最低限にする行動を私だけ行ったのでは現状は変わらない。エコバックの必要性が書かれたポスターをスーパーに貼ってもらうなどして、廿日市の地域の人にも行動に移してもらいたい。	・　自分で文章にまとめられない児童には文末が書かれたヒントカードや自分や友達が書いた「そういえば…カード」を提示する。 ・　プラスチックごみ問題に対して自分にできることが考えられない児童には、関連図書を提示し、家庭で取り組めそうなことを選択させる。
主体的に学習に取り組む態度	進んで、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを文章にまとめようとしている。	行動観察 プラスチックごみ問題のために自分にできることについて考えをまとめる際に、筆者の文章を読み返したり、必要な情報を探したりすることを進んで行っている。また、まとめたものを何度も読み返したり、修正したりして、自分の考えがより確かなものになるように書こうとする姿を評価する。	・　筆者の文章のどこを読み返せばよいか分からない児童には、第３時、第４時でまとめた要点や本論の内容を整理したワークシートを見るように促し、自分の欲しい情報が探しやすいようにする。 ・　修正の必要がある部分を修正することができない児童には、他者に読んでもらい、分かりにくい部分を指摘してもらうようにする。

5　指導と評価の計画（全９時間）

次	時	学　習　内　容	評　価			
			知	思	主	評価規準・評価方法　等
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・絵本「プラスチックのうみ」（ミシェル・ロード作、小学館）の教師による考え聞かせを聞き、プラスチックごみが環境に影響を与えていることを知る。 ・本単元で身に付けたい力を共有する。				
二	2・3・4・5	○教材文を読んで文章全体の構成を捉える。 ・形式段落を確認し、序論・本論・結論の構成を考える。 ○それぞれの形式段落から伝えたいことを読み取り、要点にまとめる。 ○本論から、原因と結果、解決策を読み取り、ワークシートに整理する。 ○教材文と資料の語句と語句に印をつけるなどして、情報と情報の関係を捉える。	○			〔知識・技能①〕 一人１台端末 ・情報と情報の関係付けの仕方を理解し、使っているかの確認
	6（本時）・7・8	○教材文、資料と自分の知識や経験を関連付けてごみ問題に対して自分にできることをまとめる。 ○まとめたものを他クラスの児童と読み合い、自分の考えがより確かなものになっているか確認し、必要に応じて修正する。 ○まとまった考えを自クラスの児童に宣言し合い、自分の考えを広げる。		○	○	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート、一人１台端末 ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめているかの確認 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 児童の様子 ・進んで、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを文章にまとめようとしているかの確認
三	9	○学習の振り返りをする。 ・単元を通してどんな力が身に付いたか、その力はどんなところで生かせるかを振り返る。				

6　本時の学習

(1) 本時の目標

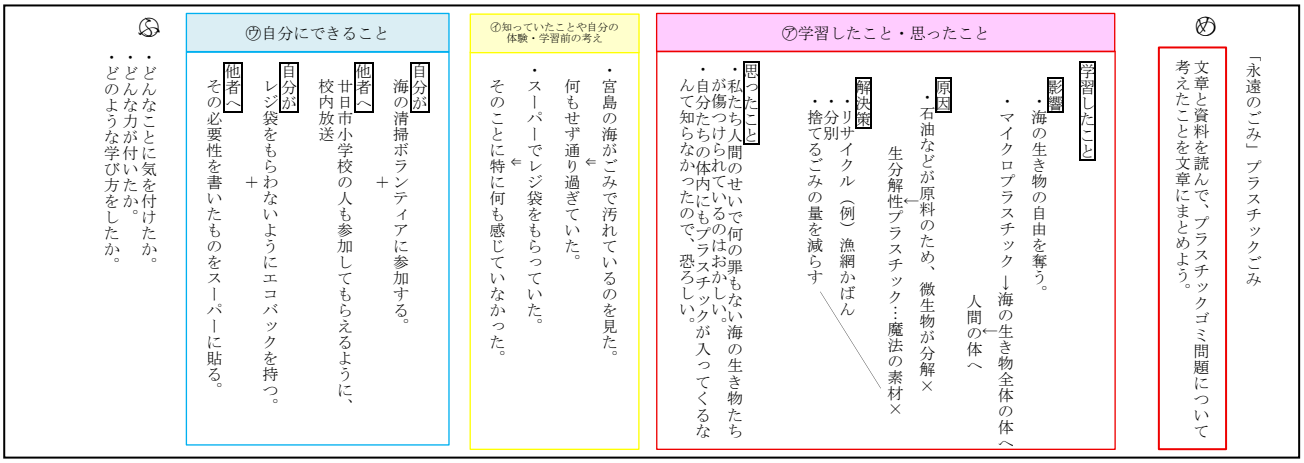
文章の内容と自分の既有の知識や経験とを結び付けながらプラスチックごみ問題に対する自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1　学習計画を確認し、学習課題を設定する。	○本時までに学習計画を教室に掲示したり、児童に学習計画を配付したりしておく。	
めあて　文章と資料を読んで、プラスチックごみ問題について考えたことを文章にまとめよう。		
2　学習してきたことを振り返る。	○第４時でまとめた本論の内容を整理したものを見ながら振り返ることで、プラスチックごみによって起こった結果やその原因、それに対する解決策を確認できるようにする。 □学んだことに対してどう思いましたか。 ・私たち人間のせいで何の罪もない海の生き物たちが傷つけられているのはおかしいと思いました。 ・自分たちの体内にもプラスチックが入ってくるなんて知らなかったので、恐ろしく感じました。	
3　プラスチックごみについての既有の知識や経験を交流する。	○これまでに書いた「そういえば…カード」を振り返り、自分はそのことに対してどう行動したかを交流する。 □どんなことを経験したり、知っていたりしましたか。また、それに対してどう行動していましたか。 ・宮島の海がごみで汚れているのを見たことがありました。何もせず通り過ぎました。 ・スーパーでレジ袋をもらっていました。そのことに特に何も感じていませんでした。	
4　自分たちにできることを交流する。	○筆者の文章の「プラスチックの使い方や捨て方を、大人も子供も考え、行動に移しましょう。」を音読することで、自分だけが行動するだけではプラスチックごみ問題は変わらないことを意識付ける。 □自分たちにできることは何でしょう。 ・海の清掃ボランティアに参加することです。それに廿日市小学校の人も参加してもらえるように、校内放送したいです。 ・レジ袋をもらわないようにエコバックを持ち運びすることです。その必要性を書いたものをスーパーに貼りたいです。	
5　自分の考えを文章にまとめる。	○板書を㋐学習したことと思ったことは赤、㋑知っていたことや自分の体験と学習前の考えは黄色、㋒自分にできることは青で色分けして示し、ワークシート上の該当する欄もそれぞれ同じ色で囲んでおくことで、児童が板書の内容と自分の記述を容易に対応できるようにする。 ○A評価、B評価の基準を示したルーブリック	・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。（ワークシート、一人１台端末）

	を共有する。 ◆自分で文章にまとめられない児童には文末が書かれたヒントカードや自分や友達が書いた「そういえば…カード」を提示する。 ◆プラスチックごみ問題に対して自分にできることが考えられない児童には、関連図書を提示し、家庭で取り組めそうなことを選択させる。	
6　振り返りをする。	○次時は文章にまとめたことを他クラスの児童と読み合うことを伝え、次時の見通しをもたせる。	

(3) 板書計画



7　指導の実際

(1)　指導上の工夫

ア　学習の見通しをもたせるための工夫

第１時には、単元の流れを説明するために学習計画を配付し、常時確認できるように教室にも掲示をした。また、本単元で身に付けてほしい力について、知識・技能と思考・判断・表現のそれぞれの観点から、どのようなことができるようになればよいのかを説明した。具体的には、「①文章と資料がどのような関係でつながっているかを言葉にする」力については、教材文と資料を比較し、共通点や相違点、内容を補完している部分、具体例を示している部分などを見付け、それらを言葉で説明できるようになることだと伝えた。また、「②文章を読んで分かったことと、これまでの知識や経験をつなげて自分の考えをまとめる」力については、教材文を読んで、㋐学習して分かったこと・考えたこと、㋑これまでに知っていたことや自分の体験・学習前の考え、㋒自分にできることの三つの観点から、筋道の通った文章で書けるようになることを、具体例を示しながら説明した。

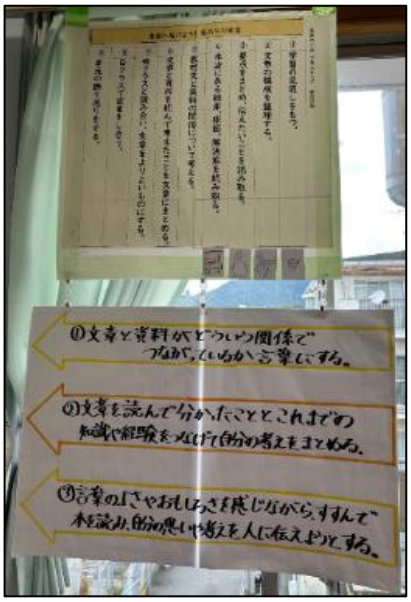
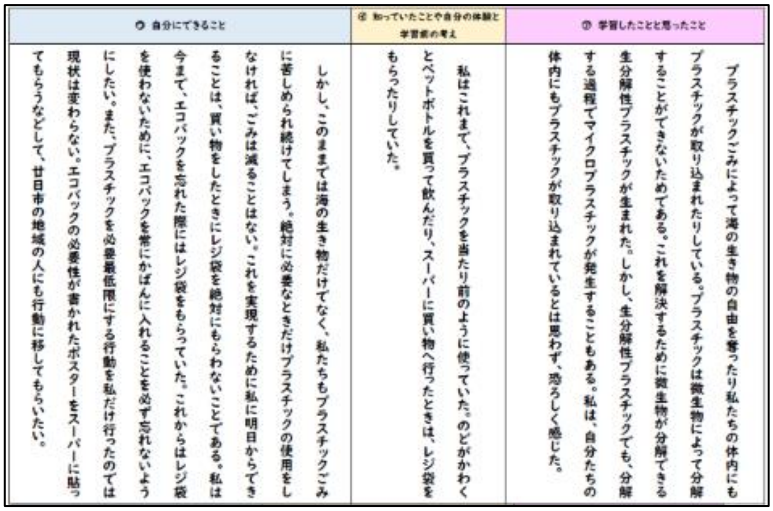


写真１　学習計画と身に付けたい力の掲示



㋒ 自分にできること	㋑ 知っていたことや自分の体験と学習前の考え	㋐ 学習したことと思ったこと
しかし、このままでは海の生き物だけでなく、私たちもプラスチックごみに苦しめられ続けてしまう。絶対に必要なときだけプラスチックの使用をしなければ、ごみは減ることはない。これを実現するために私に明日からできることは、買い物をしたときにレジ袋を絶対にもらわないことである。私は今まで、エコバックを忘れた際にはレジ袋をもらっていた。これからはレジ袋を使わないために、エコバックを常にかばんに入れることを必ず忘れないようにしたい。また、プラスチックを必要最低限にする行動を私だけ行ったのでは現状は変わらない。エコバックの必要性が書かれたポスターをスーパーに貼ってもらうなどして、甘日市の地域の人にも行動に移してもらいたい。	私はこれまで、プラスチックを当たり前のように使っていた。のどがかわくとペットボトルを買って飲んだり、スーパーに買い物へ行ったときは、レジ袋をもらったりしていた。	プラスチックごみによって海の生き物の自由を奪ったり私たちの体内にもプラスチックが取り込まれたりしている。プラスチックは微生物によって分解することができないためである。これを解決するために微生物が分解できる生分解性プラスチックが生まれた。しかし、生分解性プラスチックでも、分解する過程でマイクロプラスチックが発生することもある。私は、自分たちの体内にもプラスチックが取り込まれているとは思わず、恐ろしく感じた。

写真２　身に付けたい力②について児童に示した具体例

イ　考えを形成するための工夫

(ｱ)　本時までに行った工夫

・　環境の設定

児童に「文章を読んで分かったことと、これまでの知識や経験をつなげて自分の考えをまとめる」力として示した内容の「㋑これまでに知っていたことや自分の体験・学習前の考え」において、自分の知っていたことや体験を想起できるように関連図書を教室内に配置した。その際、教材文との関連が特に強いものについては、該当ページを開いた状態で提示した。また、参考になったページに付箋を貼らせ、他の児童もそのページを自由に閲覧できるようにした。その結果、開いてあるページを手に取って読む児童の姿が見られたほか、「自分にもこれなら！カード」への記入において取組が思い浮かばずに困っていた児童が、関連図書を参考にする様子も見られた。

写真３　関連図書の設置

・　「そういえばカード」「自分にもこれなら！カード」

形成した考えを記述させる際（写真２　参照）に「㋑これまでに知っていたことや自分の体験・学習前の考え」において自分の知っていたことや体験を書けるように、「そういえばカード」を隙間時間に書かせた。この「そういえばカード」には、教材文を読んでいて思い出したプラスチックごみに関する知識や、似たような体験、プラスチックごみ問題に関係しそうな体験などを書かせた。

また、㋐でプラスチックごみ問題に対して自分が取り組みたいことを書けるように、「自分にもこれなら！カード」も隙間時間に書かせた。この「自分にもこれなら！カード」には、教材文や関連図書を読んで見付けた、自分にもできそうな取組を書かせた。

この二種類のカードを本時までに十分に書き溜めておいたことで、本時の考えの形成の際にはカードを参照しながら自分の考えを文章にまとめている姿が見られた。

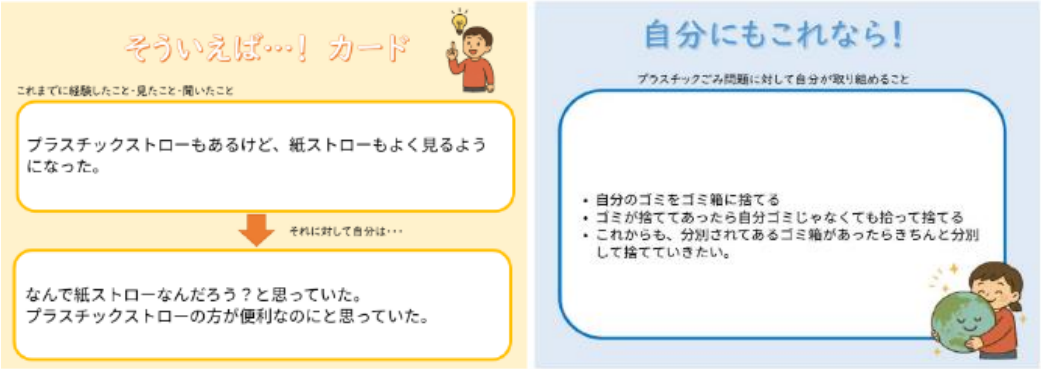


写真４　児童が書いた「そういえばカード」「自分にもこれなら！カード」

(ｲ)　本時に行った工夫

・　板書とワークシート

観点ごとに色分けした板書を行い、ワークシートも同じ色で示したことで、児童は板書を手掛かりにしながら、ワークシートに考えを整理してまとめることができた。

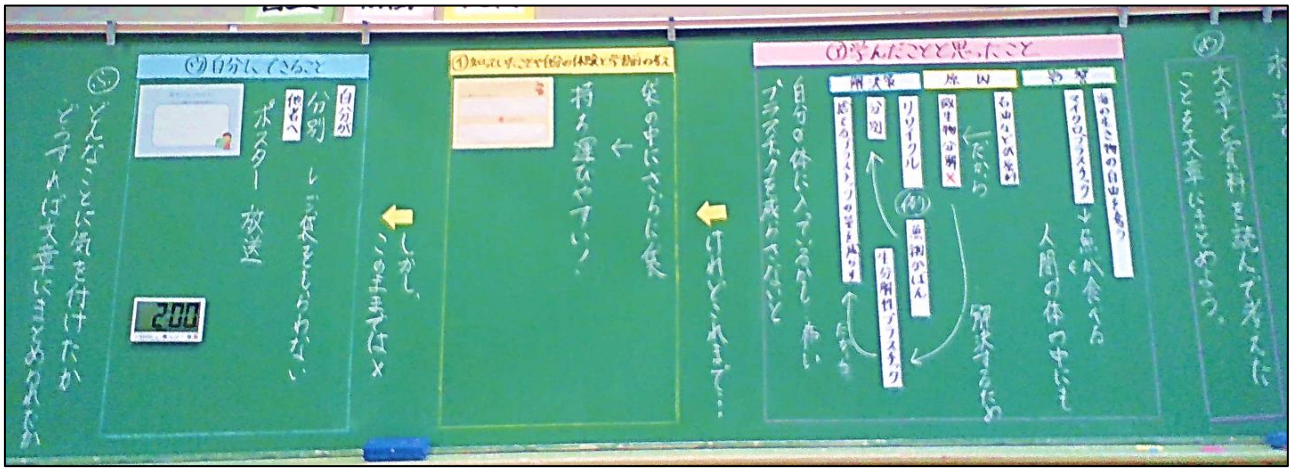


写真５　本時の板書

写真６　本時のワークシート

(ｳ)　本時後におこなった工夫

・　考えの形成をまとめた文章の修正

まとめた文章は、他クラスの児童と交換し合い、考えがより確かなものになるよう相互に修正を行った。その際、A基準を満たすことを意識し、修正した方がよい点を付箋に書いて伝え合った。児童は、その付箋を参考にしながら、自分の文章をよりよいものに書き直していた。これまでは自クラス内の決まった相手に相談することが多かったが、他クラスの児童と文章を見合うことで、異なる視点から捉え直すことができ、考えをより確かなものにする姿が見られた。

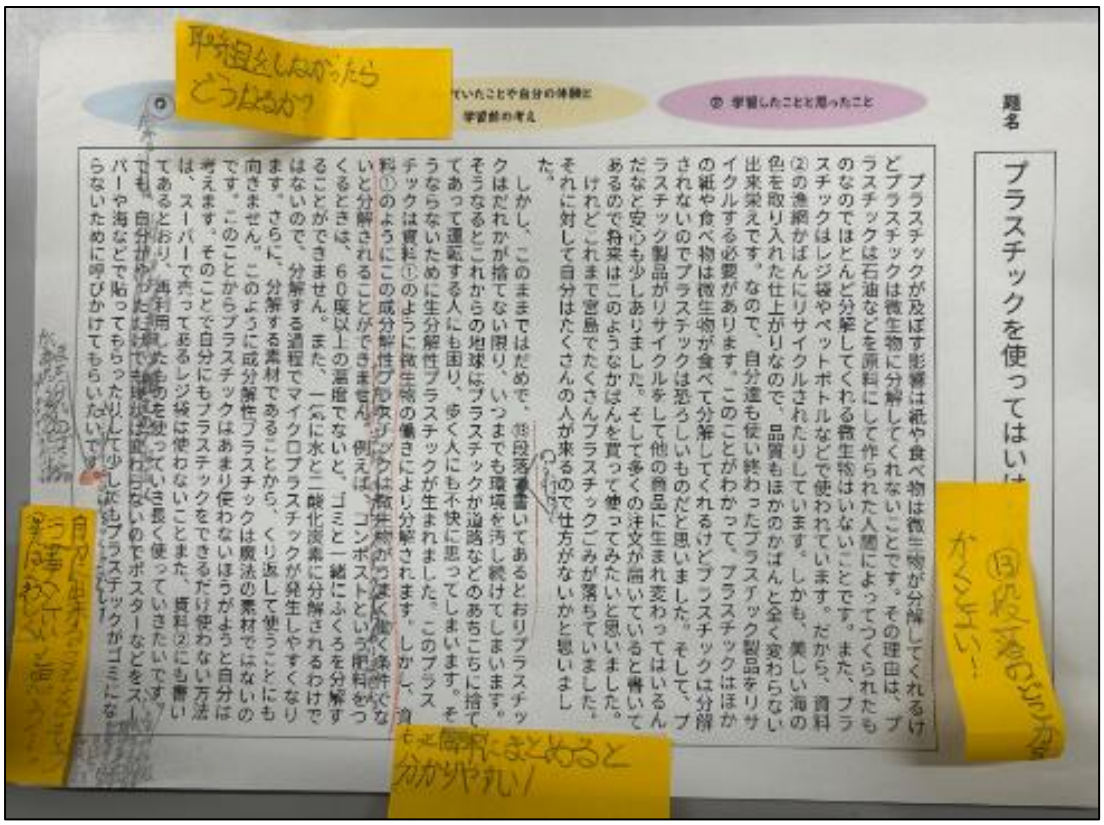


写真７　修正をしたワークシート

(2)　児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア　文章の内容を理解することへのつまずき

第４時では、教材文中の「プラスチックごみが生き物に与える影響」について、文章表現だけでは十分に理解できていない児童が見られた。具体的には、「プラスチックの中には生き物の体に悪い影響を与える成分を含むものがある」「海を漂ううちに汚染物質が表面に付着する」「それらがマイクロプラスチックとして体内に取り込まれることで有害な成分が残る」といった内容を捉えきれていない様子があった。そこで、悪影響を表す成分や魚の具体物を用意し、児童がそれらを動かしながら説明することで、どのような過程で生き物に影響が及ぶのかを視覚的に理解できるようにした。

写真８　教材文の内容を視覚化した具体物

第５時での情報と情報の関係を捉える学習では、文章量が多く、どこに着目して読めばよいか分からない児童が見られた。そこで、読む範囲を限定し、共通する内容を探すよう促した。それでも見付けることが難しい児童には、友達が書いた文章の一部を提示し、その内容が書かれている箇所を本文中から探させた。

イ　自力で考えを形成することへのつまずき

「考えの形成」の場面では、数分たっても形成した考えを書きまとめることができない児童が見られた。そこで、一人で取り組むことが難しい児童には前に集まるよう声をかけ、教師とともに形成した考えを文章化できるような支援を行った。その際、第４時で教材文の内容を整理したワークシートや、これまでに書き溜めてきた「そういえばカード」「自分にもこれなら！カード」を随時参照させるとともに、文と文をつなぐための接続語を提示した。

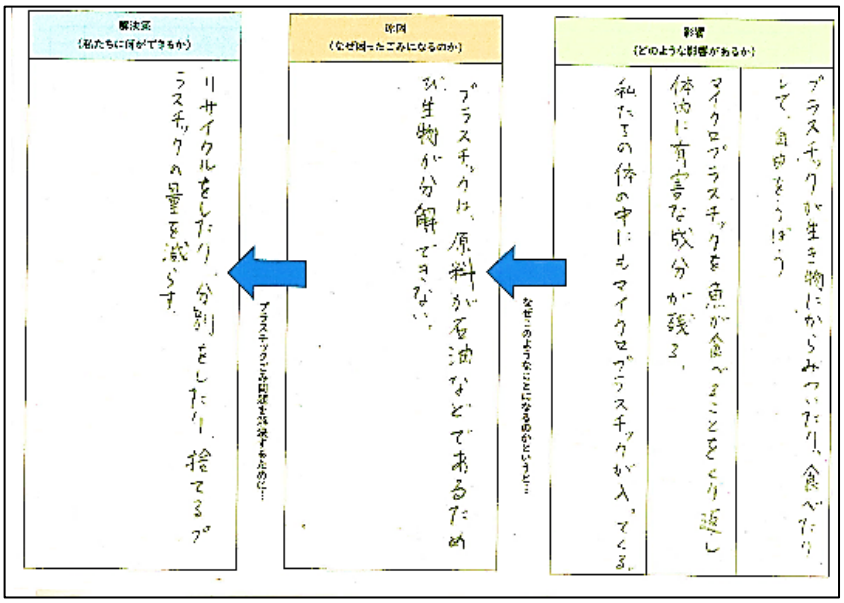


写真９　第４時でまとめたワークシート

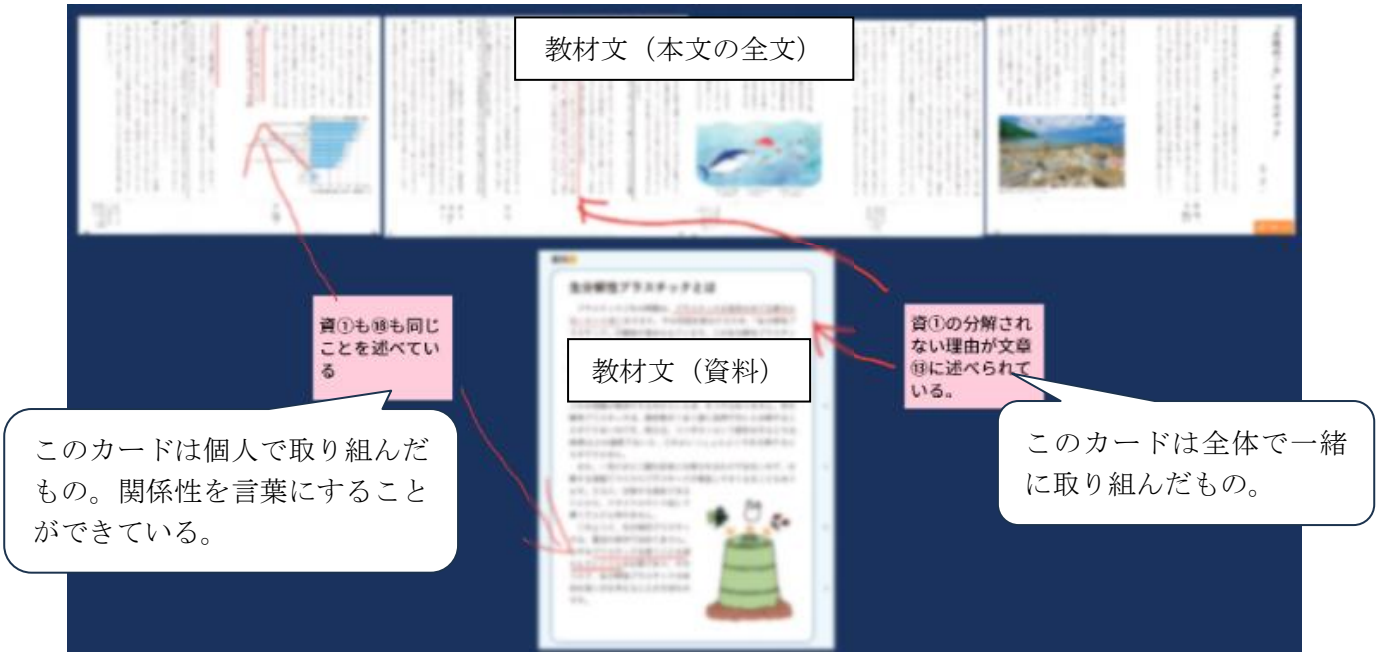
８　評価の実際

(1)　評価の具体

ア　知識・技能

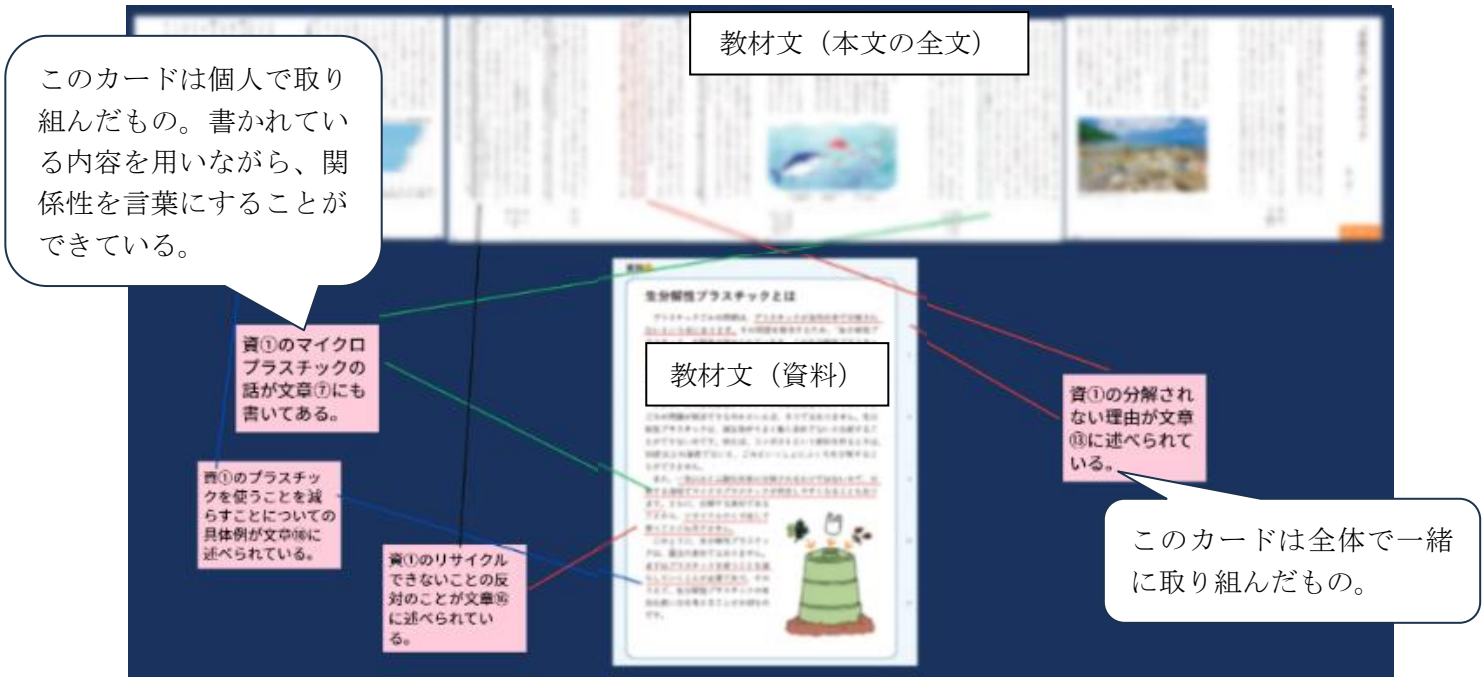
(ｱ)　「おおむね満足できる」状況（Ｂ）

教材文と資料を比較して、関連のある内容同士を線でつなぎながらどういう関係かを学習支援アプリ上のカードに書くことができている。



(ｲ)　「十分満足できる」状況（A）

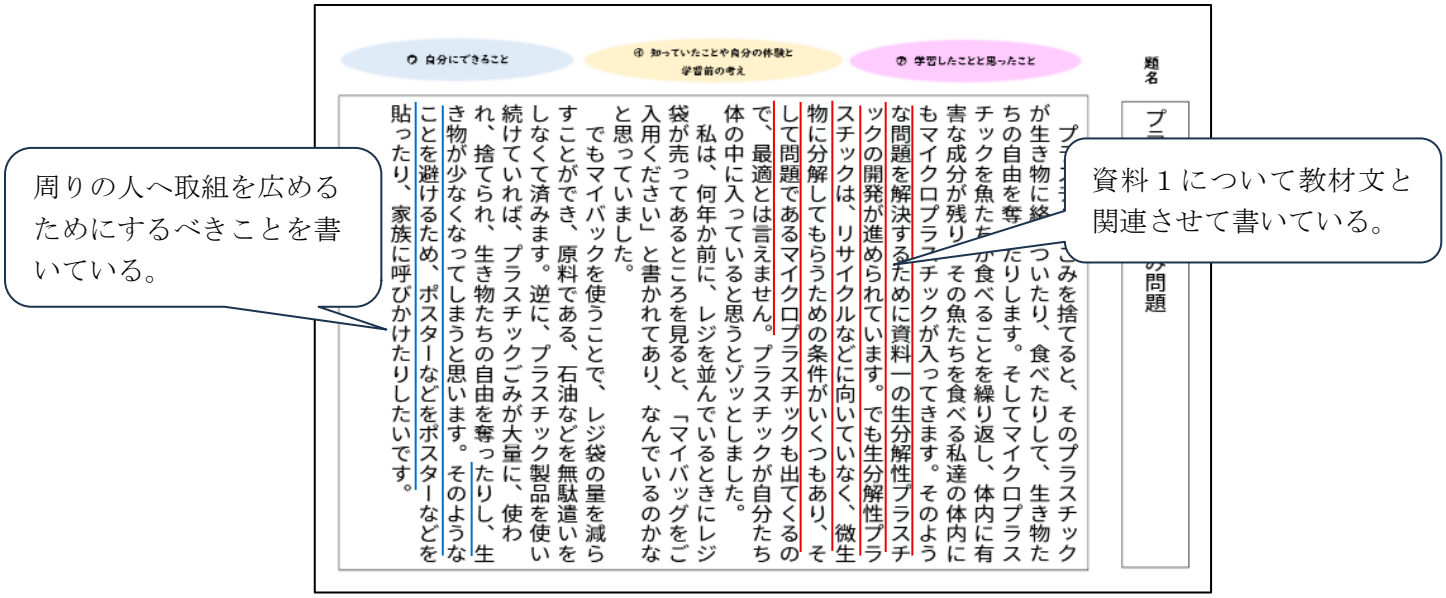
教材文と資料を比較して、関連のある内容同士を線でつなぎながらどういう関係かを学習支援アプリ上のカードに複数書くことができている。



イ　思考・判断・表現

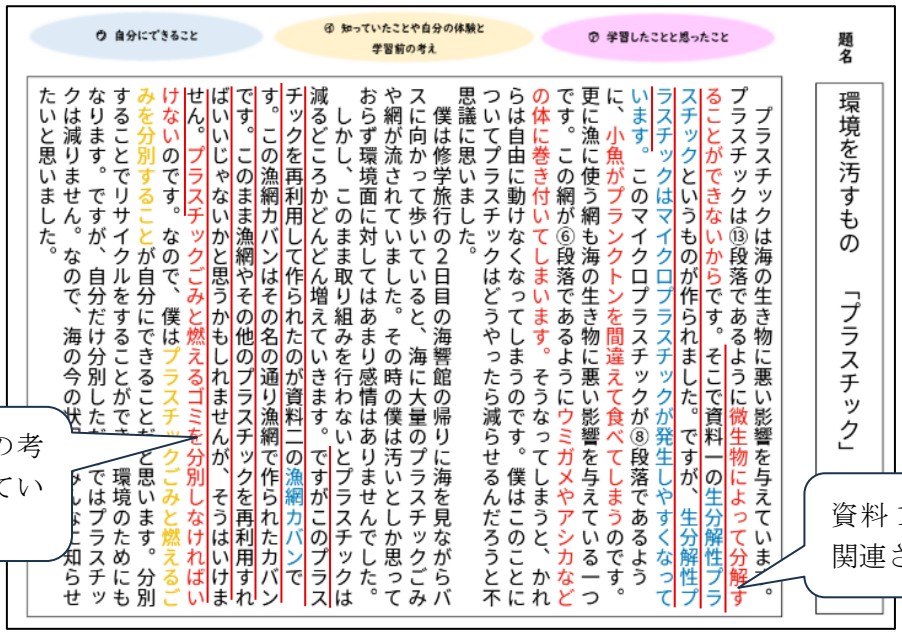
(ｱ)　「おおむね満足できる」状況（B）

観点ごとにまとめるのではなく、三つの観点を文章としてまとめている。㋐か㋒に教材文と資料１、２のどちらかを使って書いている。㋒に教材文の「これからは、プラスチックの使い方や捨て方を、大人も子供も考え、行動に移しましょう。」ということをふまえ、プラスチックごみ問題に対する取組を自分だけでなく周りの人へ広めるためにするべきことも書いている。



(ｲ)　「十分満足できる」状況（A）

㋐か㋒に文章と資料１、２全ての内容を使っている。または、㋐に教材文から思ったこと、資料から思ったことをそれぞれ別々に書くのではなく、教材文と資料の二つをふまえて思ったことを書いている。または、㋑に書いた自分の体験と㋒に書く自分にできることが関連している。



題名

環境を汚すもの　「プラスチック」

㋐ 自分にできること　㋑ 知っていたことや自分の体験と学習前の考え　㋒ 学習したことと思ったこと

プラスチックは海の生き物に悪い影響を与えています。プラスチックは⑬段落であるように微生物によって分解することができないからです。そこで資料一の生分解性プラスチックというものが作られました。ですが、生分解性プラスチックはマイクロプラスチックが発生しやすくなっています。このマイクロプラスチックが⑧段落であるように、小魚がプランクトンを間違えて食べてしまうのです。更に漁に使う網も海の生き物に悪い影響を与えている一つです。この網が⑥段落であるようにウミガメやアシカなどの体に巻き付いてしまいます。そうなってしまうと、かれらは自由に動けなくなってしまうのです。僕はこのことについてプラスチックはどうやったら減らせるんだろうと不思議に思いました。

僕は修学旅行の2日目の海響館の帰りに海を見ながらバスに向かって歩いていると、海に大量のプラスチックごみや網が流されていました。その時の僕は汚いとしか思っておらず環境面に対してはあまり感情はありませんでした。

しかし、このまま取り組みを行わないとプラスチックは減るどころかどんどん増えていきます。ですがこのプラスチックを再利用して作られたのが資料二の漁網カバンです。この漁網カバンはその名の通り漁網で作られたカバンです。このまま漁網やその他のプラスチックを再利用すればいいじゃないかと思うかもしれませんが、そうはいけません。プラスチックごみと燃えるゴミを分別しなければいけないのです。なので、僕はプラスチックごみと燃えるごみを分別することが自分にできることだと思います。分別することでリサイクルをすることができます。環境のためにもなります。ですが、自分だけ分別しただけではプラスチックは減りません。なので、海の今の状況を少しでも知らせたいと思いました。

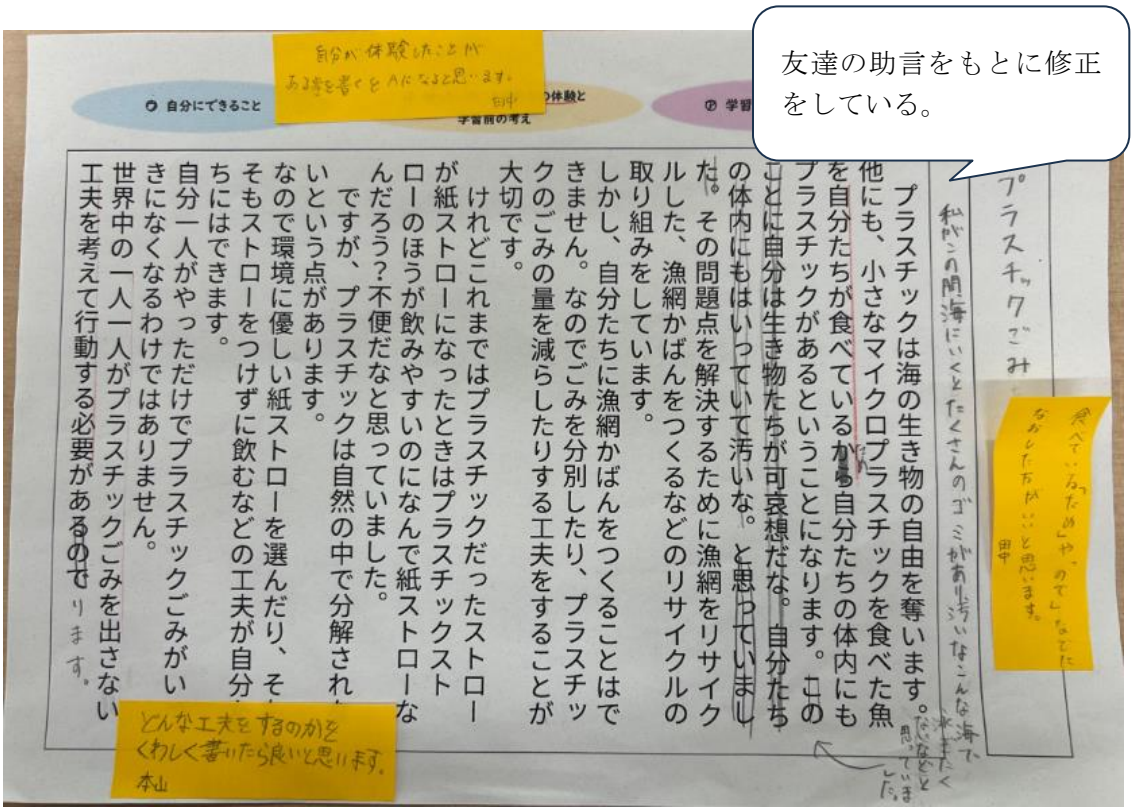
資料１について教材文と関連させて書いている。

資料２について自分の考えと関連させて書いている。

ウ　主体的に学習に取り組む態度

(ｱ)　「おおむね満足できる」状況（B）

友達からの助言が書かれた付箋をもとに文章を見直し、修正している。



プラスチックごみ

私がこの間海にいくとたくさんのゴミがあり汚いなこんな海で泳ぎたくないなどと思っていました。

プラスチックは海の生き物の自由を奪います。他にも、小さなマイクロプラスチックを食べた魚を自分たちが食べているから自分たちの体内にもプラスチックがあるということになります。このことに自分は生き物たちが可哀想だな。自分たちの体内にもはいっていて汚いな。と思っていました。その問題点を解決するために漁網をリサイクルした、漁網かばんをつくるなどのリサイクルの取り組みをしています。

しかし、自分たちに漁網かばんをつくることはできません。なのでごみを分別したり、プラスチックのごみの量を減らしたりする工夫をすることが大切です。

けれどこれまではプラスチックだったストローが紙ストローになったときはプラスチックストローのほうが飲みやすいのになんで紙ストローなんだろう？不便だなと思っていました。

ですが、プラスチックは自然の中で分解されないという点があります。

なので環境に優しい紙ストローを選んだり、そもそもストローをつけずに飲むなどの工夫が自分たちにはできます。

自分一人がやっただけでプラスチックごみがいきになくなるわけではありません。

世界中の一人一人がプラスチックごみを出さない工夫を考えて行動する必要があるのです。

自分が体験したことがある事を書くとAになると思います。 田中

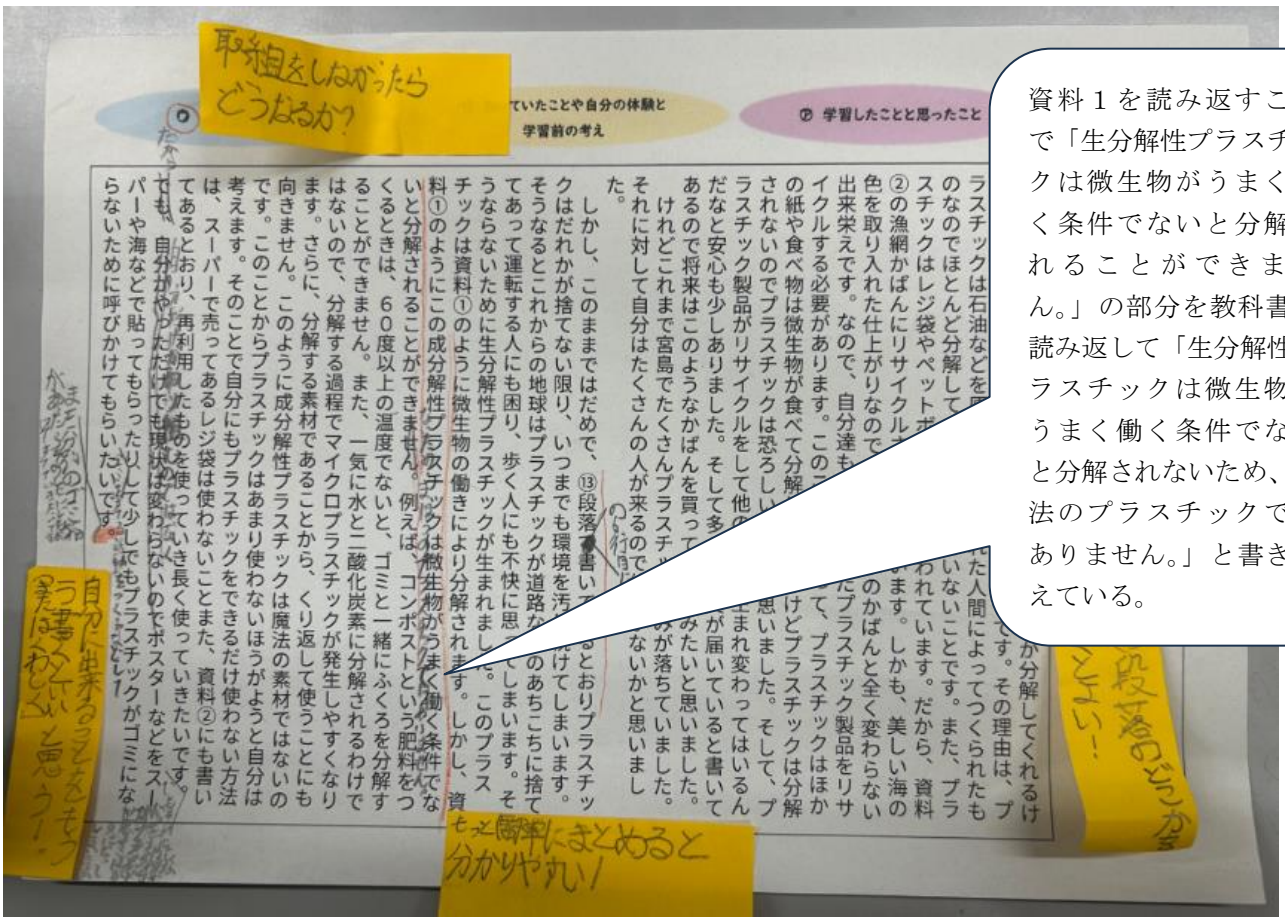
食べているから」や「ので」などをなおしたらいいと思います。 田中

どんな工夫をするのかをくわしく書いたら良いと思います。 本山

友達の助言をもとに修正をしている。

(ｲ)　「十分満足できる」状況（A）

教科書を読み返しながら文章を見直し、試行錯誤しながら複数箇所修正をしている。



資料１を読み返すことで「生分解性プラスチックは微生物がうまく働く条件でないと分解されることができません。」の部分を教科書を読み返して「生分解性プラスチックは微生物がうまく働く条件でないと分解されないため、魔法のプラスチックではありません。」と書き加えている。

(2)　児童の評価

評価		「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）
知識・技能	①　情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。（（２）イ）	４人	18 人	７人
思考･判断･表現	①　「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。（C（１）オ）	７人	14 人	８人
主体的に学習に取り組む態度	①　進んで、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを文章にまとめようとしている。	７人	22 人	０人

9　成果と課題

(1)　成果

・　単元の初めに、単元末に書く文章の例を示したり、B評価の基準を本時までに提示したりしたことで、児童は完成形の具体的なイメージをもって学習を進めることができた。また、本時までに考えの形成に活用できるメモを継続して書き残してきたことで、本時では時間をかけて悩みながらも、自力で文章を書くことができた児童が約８割に達した。

・　他クラスの児童と考えを交流し、より確かなものにするために助言し合ったことで、これまでとは異なる視点から助言を受けることができていた。その結果、自分の考えを改めて見直すきっかけとなり、自らの考えの妥当性について見つめ直したり修正したりする姿が見られた。

(2)　課題

・　第５時において、教材文と資料の関係を言葉にする活動では、ほとんどの児童が自力で表現することができなかった。共通して書かれている内容を見付けることはできていたものの、そこか

ら関係性を言語化することに難しさを感じていた。関係がある箇所に線を引いて共有し、その後に「どのような関係なのか」を言葉にして共有するなど、より小さな段階を踏んだスモールステップで指導する必要があった。

・　考えを書く活動では、これまで観点ごとに整理して書かせることが中心であったため、文章としてまとめることへ困難さを感じていた。今後は、観点ごとに整理する段階にとどまらず、文章にまとめて書く活動を取り入れ、継続的に練習させていきたい。

・　文章にまとめる際には、A評価・B評価の基準を示したルーブリックを共有した。目標を明確にすることで取り組みやすくなると考えたためである。しかし、教材文と資料１を関連付けて筋道の通った文章を書けていた児童が、A評価の基準である「資料２も関連付けること」を満たそうとするあまり、文章全体を書き直す姿が見られた。結果として、A評価の基準に無理に当てはめようとする状況を生んでしまった。今後は、ルーブリックのA評価の基準に当てはまらないが、A評価となりそうなものは、児童に随時共有し、ルーブリックに基準を追加していくという方法をとりたい。

(3)　今後に向けて

・　考えの形成に重点を置く単元では、単元の開始時から、最終的にどのような考えを形成するのか、その方向性を具体的に示すとともに、考えを形成する時間までに、思い付いたことや小さな気付きであってもメモとして書き残す取組を継続していきたい。

・　形成した考えを文章に書きまとめることに困難さを感じる児童が多かったことから、国語科に限らず他教科においても、考えを書く際には自分の体験や知識を取り入れて文章にまとめる経験を積ませたい。また、接続語を適切に提示することで、筋道の通った文章を書けるよう継続的に指導していきたい。

・　考えの形成において「努力を要する」状況（C）となった児童が、今後、他単元でも「おおむね満足できる」状況（B）へと高まるためには、まず児童自身の考えをつくるための材料を蓄えることが必要である。そのため、「そういえばカード」「自分にもこれなら！カード」の他に、教材文を読む中で生まれた気付きや考えを書き留めさせ、思考を可視化していきたい。また、接続語を示したワークシートを活用し、文と文のつながりを意識しながら文章にまとめられるようにする。さらに、ノートや振り返りを基に児童の思いを聞き取り、対話を重ねることで考えを整理し、文章を書けるようにしたい。これらの手立てを、児童の実態に応じて選択しながら取り組んでいく。

付録　選書リスト

書名	著者名	出版社名
プラスチックのうみ	ミシェル・ロード／作 ジュリア・ブラッドマン／絵 川上拓土／訳	小学館
ごみから考えるＳＤＧｓ 未来を変えるために、何ができる?	織　朱實／監修	ＰＨＰ研究所
国谷裕子とチャレンジ！未来のためのＳＤＧｓ１　「人間」に関するゴール	国谷裕子／監修	文溪堂
国谷裕子とチャレンジ！未来のためのＳＤＧｓ２　「豊かさ」に関するゴール	国谷裕子／監修	文溪堂
国谷裕子とチャレンジ！未来のためのＳＤＧｓ３　「地球」に関するゴール	国谷裕子／監修	文溪堂
追跡！!ごみのゆくえ　ペットボトル	吉田忠正／文・写真 辻芳徳／監修	ほるぷ出版
イチからつくるプラスチック	岩田忠久／編 内田かずひろ／絵	農山漁村文化協会
知ってる？アップサイクル:もうひとつの	「知ってる?アップサイクル」	さ・え・ら書房

リサイクル１　アップサイクルってなに？	編集委員会／編	
知ってる？アップサイクル:もうひとつのリサイクル２　アップサイクルをやってみよう！	「知ってる?アップサイクル」編集委員会／編	さ・え・ら書房
海のプラスチックごみ調べ大事典:なぜ？どうしたら？プラごみ問題がゼロからわかる！	保坂直紀／著	旬報社
地球が危ない！プラスチックごみ１　海洋プラスチック　魚の量をこえる！？	幸運社／編	汐文社
地球が危ない！プラスチックごみ２　日本中にあふれるプラスチック	幸運社／編	汐文社
地球が危ない！プラスチックごみ３　みんなで減らそう！プラスチック	幸運社／編	汐文社